

飛 翔



夏休みの進路学習について

①行きたい学校、職場を決める

夏休みに勉強をすることはもちろん大切ですが、それ以上に行きたい学校を決めることも大切です。また、部活動で高校を考えている人や専門学科を考えている人は、必ず体験をしてください。就職希望者や専門学校希望者は、担任の先生と相談し、職場体験等の計画を立ててください。

何か不明な点があれば遠慮なく相談してください。夏休みが始まってからでは遅いです。夏休み前に聞いてください。夏休み後の見通しを持てるようにしましょう。今は、まだまだ、悩んで良い時期です。



②宿題を確実に行う

夏休みのしおりを参考に、宿題を計画的に進めましょう。進路ノートの面接内容(P29～31)の記入もあります。公立入試2日目や私立で面接がある人はもちろん、面接のない人も作文や自己表現があります。自分の考えを文章にして表すことはとても大切です。時間をかけて取り組みましょう。

③1・2年生の復習を進める。

理想は、実力テストと1年生からの定期テスト全てが満点になるまで復習をすることです。しかし、現実にはそううまくはいきません。だからこそ、自分の弱点を徹底的に復習してください。

④具体的には・・・苦手科目克服のために！効率的でシンプルな勉強法

＜参考文献＞（参考文献「お金かけずに東大生」の勉強法が効率的すぎた”東洋経済 ONLINE）から
○わからないところがわからない場合は「わかるところまで戻る」

1つ目の壁、「わからないところがわからない」とは、よくある話だと思います。私も数学で、「本当にちんぷんかんぷんで、どうしようもない……」という状態に陥った経験があります。

そんな中で見えてきたのは、「わかるところまで戻る」ということでした。例えば数学の連立方程式でつまづいたのなら、一次方程式の復習をする。中学1年の数学でできないところがあるなら、小学校の算数の教科書を復習する。そうやって、「ここまではわかる」というポイントまでさかのぼって勉強します。「そんな悠長なことをしていていいの？」と疑問に感じるかもしれません。しかし、これは「急がば回れ」ということで、わからないところでジタバタしているよりも、潔く「わかるところまで戻る」ほうが効率的です。

○「教科書」が最強の勉強ツールと理解する

2つ目の壁、「限られた手段の中での勉強」に関しては、「教科書がいちばんわかりやすいから、教科書メインの勉強をする」ということです。変に参考書などに手を出すのではなく、何度も何度も、ボロボロになるまで教科書を読んで勉強します。

「いやそんな、教科書なんて……」と思う方もいるかもしれませんが、実際、高校入試の試験範囲は中学3年分の教科書です。それによく考えてみると、「参考書」の「参考」とは、「教科書の参考になる本」ということですね。参考書をメインにして勉強するほうが、ナンセンスです。

もちろん参考書を使うこと自体は良いことですが、教科書がいちばん情報が整理されている学習ツールであり、教科書こそ勉強における「最強のメインコンテンツ」であることを忘れてはならない、ということです。

*進路対策の手引きとして「頑張れ受験生！自分のあった高校選びと夏からの勉強方法がわかる本」という冊子を一緒に配りました。参考にしてください。